

中国第9回全国美術展受賞優秀作品による

現代 中国の

选自中国第9届全国美术展获奖作品
现代中国美术

美術

From The 9th Chinese National Art Exhibition 1999
Contemporary Paintings and Prints from China





〔挿図8〕 于凡が、1997年に中央美術学院跡地で行ったインスタレーション（写真提供：于凡）
于凡于1997年在中央美术学院旧址展示装置艺术（照片由于凡提供）

そして現在、中央美術学院は移転を終え、王府井の通りは広々とした歩行者天国に整備され、通りに並んでいた商店はブランド商品を並べるデパートに姿を変え、長安街に面した区画には超巨大なコンプレックスビル〔挿図5〕が建設されている。すでに、かつての落ち着いた王府井の面影はなく、巨大な消費都市が出現しつつある。

建国から50年目を迎えたいま、改革開放政策が決定された時に予想されたであろう、近代的な大都市に象徴される新しい中国の姿は、ほぼ明らかになってきた。

作品選考について

本展は、昨年、中国で開催された「第9回全国美術展」の日本巡回選抜展である。

「全国美術展」は中国で最大規模の美術公募展として知られ、とくに第9回目の今回は、建国50周年を迎えたことを記念して、これまで以上に盛大に開催された。応募作品は、中国画、油彩画、版画、年画、連環画、水彩画、パステル、漆絵、漫画、挿絵、ポスター、デザイン、彫刻の13部門で約10万点にのぼっている。それら応募作品から3249点が入選し、昨年10月に8都市で展示された(中国画=広東省の広州と汕頭、油彩画=上海、版画=内モンゴ

ル自治区フフホト、漆絵・年画・連環画・漫画・挿絵・ポスター=福建省福州、水彩画・パステル=南京、デザイン=深圳、彫刻=北京)。さらに、これらから、特に優秀な588点に対して金、銀、銅、優秀賞が授与され、昨年12月6日から24日に北京の中国美術館〔挿図9、10〕と中国画研究院の二会場で一般に公開された。

本展は、日本の各開催館の担当学芸員が、北京で展示された作品を中心に5部門から81点(中国画32点、油彩画29点、版画12点、年画6点、連環画2点)を厳選したものである。他の8部門についても出品を検討したが、大作の多い中国画や油彩画をできるだけ日本で展覧するため、選考をあきらめざるをえなかった。また、漆絵など温湿度の変化に敏感な作品は、約1年間の日本巡回に耐えられないと判断した。彫刻は輸送費など予算の面から巡回を見送っている。また、今回から新設されたデザイン部門〔挿図11〕は、中国美術家協会主席の劉大为氏が「改革開放政策が進展するにつれ、社会のなかで質の高いデザインが求められるようになってきた。そうした社会の動向を反映したかった」と新設の動機を語るように、「第9回全国美術展」(以下「第9回展」と略称)の特色であり、ぜひ日本へ巡回させたかった。しかし、私たちの力不足のため、工業製品のデザ

インから建築設計、内装デザイン、服飾デザイン、本の装幀、ポスターデザインなどジャンルが異なる様々なデザインに統一的な視点を設け、作品を選考することができなかった。本展は、以上のような理由から5部門からの出品だけとなっている。とはいえ、部門を絞り点数を限ったことで、「第9回展」のこれまでにない展開や特色はより明快になっているはずだ。

全国美術展について

さて、中国における「全国美術展」は、1929年に始まる。孫文が提唱した三民主義、なかでも民族主義(国内諸民族の平等と欧米列強や日本の抑圧からの国家の独立をもとめる)の機運が高まり、美術の領域でも、劉海棠らにより、中国独自の近代美術の創造が目差され、美術教育機関や政府主催の美術展の必要性が唱えられた。そうして、上海の国貨路にあった教会を会場に、教育部が主催して中国で初めての全国規模の公募展である「全国美術展」が開催されたのである。〔挿図12〕つまり、ここに公設の官展である「全国美術展」という近代的な制度が発足し、それを通して権威づけられた規範としての「美術」が形成されていくことになる。



〔挿図6、7〕 張大力は、1994年から再開発のすすむビルの壁などにスプレーで人の顔を描くプロジェクト(対話)を行う。挿図6は、そのプロジェクトの様子を記録する写真作品(写真提供：張大力)、挿図7は、落書きのように人の顔が描かれた北京市内の工事現場のフェンス。張大力利用新城市建设开发落后实际的墙壁等场所，开展以喷漆勾画人头图像的计划《对话》(1994年-)

〔挿図6〕 记录这一计划开展实况的摄影作品(照片由張大力提供)

〔挿図7〕 北京市内建筑工地的围墙上，近似乱涂乱画被勾画的人头图像